

夢をかなえた人からのメッセージ

「夢を現実にする学校」が弓削中学校のめざす学校像です。どうすれば夢を実現できるか、今回は夢を実現した人からのメッセージを紹介します。

小さいこと、ささいなことが将来の夢につながる

時代にかかわらず、宇宙飛行士は子どもたちのあこがれの職業の一つです。女性宇宙飛行士、山崎直子さんは、子どもの頃からの小さいこと、ささいなことが将来の夢につながっていると語っています。

彼女は小学生の時、家族で立ち寄ったラーメン店で、たまたま居合わせた外国の方から、「あなたもこれからどんどん世界に羽ばたくようになるよ」と話しかけられたことをきっかけに、世界に興味をもつようになり、海外文通を始め、留学の夢をもつようになったそうです。

宇宙への夢やあこがれも、当時住んでいた北海道で家族で参加していた「星を見る会」で、望遠鏡でのぞく宇宙の神秘的な光景への感動からでした。そのことがプラネタリウムに通っての宇宙疑似体験になり、やがて「宇宙に携わる仕事がしたい」そして、「宇宙飛行士になりたい」と夢がどんどんつながっていったそうです。当時NASA（アメリカ航空宇宙局）が送った惑星探査機ボイジャーから送られてくる画像や、アニメ「宇宙戦艦ヤマト」などからも影響を受けたそうです。



「好き」という気持ちが、夢の実現を手助けしてくれる

また、彼女は夢を実現する秘訣として、次の二つをあげています。

まず楽しそう、おもしろそうと思えることをたくさん体験すること。最初はたくさんの「好きなこと」をもつと、「本当に好きなもの」が見えてくるそうです。そして、やりたいことが見つかったら、「なりたい」という気持ちを強くもつこと。自分はなぜその夢をもったのか、ただ「なりたい」と思うのではなく、なってどうしたいのかをイメージすると、その夢に近づく方法が考えやすくなるそうです。夢を実現する方法は人によって違って、一つではありません。

もう一つは、夢や目標を実現するうえで、「つらいな」「大変だな」と思うことがきっとあります。そんな時は「好き」という最初の気持ちを思い出すこと。心が折れそうになっても、「やっぱり好き」という気持ちがあれば、走り続けることができるはずです。



山崎さんは大学院卒業後、宇宙開発事業団（現在のJAXA：宇宙航空研究開発機構）に入社し、難関の試験を突破してあこがれの宇宙飛行士候補者に選ばれました。そして、いろいろな訓練を受け、2001年9月に夢であった正式な宇宙飛行士となりました。その後2010年4月、ついにスペースシャトルの乗組員として国際宇宙ステーションに行き、物資輸送などのミッションに携わりました。



